

第86回全道メーデー大会 200団体・5千名結集

—平和を守り、雇用を立て直す—

五月晴れの下、第86回メーデーが開催され、札幌の大通公園8丁目広場には200団体5000名が参加し、労働者の祭典を祝った。

シンガー・ソング・ライター a s a h i さんの弾き語りや花巻温泉ご招待をはじめとする抽選会等のアトラクションの他、高校生平和大使2名が、1年間の活動を報告した後、式典が始まり、大会主催者を代表して連合北海道工藤会長が挨拶を行い、とりわけ、今年が戦後70年の節目であることから、「主権在民、基本的人権、恒久平和を基調とする日本国憲法の理念に沿った自由、平等、公正で平和な社会を実現する」と記されている連合綱領を示し、「国民の暮らしを守り、平和な世界をつくるための行動を進めていく」とした。

さらに、多くの来賓が参加した中、本日で札幌市長を退任する上田文雄さんが市長として最後の挨拶に立ち、12年間を振り返った後、「安心して暮らせるマチを作るには、市民一人一人が自分たちのマチにに何が必要なのかを自覚し、行動していく勇気を持たなければならない。」「今、憲法の前文、9条が空洞化される危険な社会状況にある。政府が何でもできる政治を許してはいけない。しっかり異議申し立てをする労働者・市民の力が今こそ求められている」として、市長退任後は市民活動の仲間として一緒に頑張ると決意を述べた。

また、上田前市長から市政を引き継いだ秋元克広新市長も挨拶に立ち、「市政を担う責任の重さを実感している」「人を大切にすることや市民と一緒にマチ作りを基本とする上田市政を継承・発展させ、未来につなげていく」と、今後の市政運営についての抱負を述べた。

式典はその後、メーデー宣言、特別決議を満場の拍手で採択されて終了し、札幌市内へとデモ行進をスタートさせ、「労働者保護ルールの改悪 反対!」「憲法解釈変更による集団的自衛権行使容認 反対!」などのシュプレヒコールを行い、市民に連合北海道の運動を訴えた。

